



2018年 入園児者クリスマス礼拝より

パフテスト心身障害児(者)を守る会
愛の手を

第194号

発行責任者
 社会福祉法人 パフテスト心身
 障害児(者)を守る会
 重症心身障害児施設 久山療
 育園重症児者医療療育センター
 理事長 山田雄次
 編集責任者 梅木光男
 福岡県糟屋郡久山町大字
 久原 1869
 ☎(092)976-2281
 FAX (092)976-2172

新年のご挨拶
 重症児者と共に生きる思いを新たに

理事長 山田雄次

皆様新しい思いをもつて新年をお迎えのことと思います。キリスト教での暦はクリスマスから始まりますが、久山療育園重症児者医療療育センター(以下久山療育園)は12月13日(木)近隣のパフテスト教会及びボランティア・保護者・職員等、150名ほどの関係者が集いクリスマス礼拝を守り新しい年2019年を迎えました。

礼拝では久山療育園創設期の中心メンバーで、昨年仙台から帰福された金子純雄元理事から「救い主はどこにおられますか」という主題で「神は最も弱く惨めな姿でご自分を現された。家畜小屋での救い主の誕生は全く無力な者の中にこそ神が共におられることの確かなしるしであり、わたしたちはそのような人々の中でこそ主にお会い出来るということとを信じ重症児者と共に生きたい」というメッセージを聴き出席者一同「重症児者と共に」という思いを新たに強く致しました。

新しい年の1月から3月は年度末の決算及び決算予想を踏まえた上で新年度の事業計画と予算づくりの取り組みを推めてゆく時期となりますが、創設40年後、3年目の事業の拡充に向け園を挙げて取り組みを推めて行こうとしているところです。

肝心の2019年度の取り組みについては「在宅支援・地域福祉の心要に込める」を年間主題とし、ハード・ソフト両面から以下の

- 一. 入所者の医療療育の一層の充実を期すとともにこれ迄の短期入所・通所事業の取り組みに加え2015年に開設した「在宅支援センター」(訪問事業、相談支援事業等の拡充強化の拠点としての「在宅支援棟」と重症児者に特化したグループホーム「重症者ホームひさやま」の併設)の活用を通しての在宅支援の一層の拡充を目ざす取り組み。
 - 二. 現在のITシステムのバージョンアップとしての新システム構築に向けた継続した取り組み。
 - 三. 2016年の社会福祉法人改革に基づく法人のガバナンスの強化にかかわる継続した取り組みの推進、その一貫としての役員の定年制の導入による新しい役員(理事・評議員)会構成の課題と3年後の外部監査導入準備等。
 - 四. 社会福祉充実残額に基づく社会福祉充実計画3年目の課題の取り組み。
 - 五. その他
- この年も久山療育園の設立の目的である「重症児者が社会の片隅に収容されて生きるのではなく、地域の中心に位置づけられる福祉社会」の実現に向けた取り組みの1年としたいと職員一同思いを新たにしています。
- 皆様から一層のお祈りとご支援を賜りますようお願い申し上げます。

主張

「久山療育園運営協議会」の開催と

「日本バプテスト連盟年次総会」へ出席して

理事長 山田 雄次

毎年年度後半の10月と11月に開催される2つの重要な会議がありますが、今年は理事長在職10年の区切りの年であり、それぞれ特別な思いをもって臨むこととなりました。2つの会議に臨んでの思いを述べさせて頂きたいと思えます。

一、第二回の運営協議会の開催について

これは久山療育園の従来の「全国支援者会議」に代わる会議(定款23条)で久山療育園の現状と将来についての展望を協議し、重症児者医療療育センター(以下久山療育園)としての方向性を広い視野から示してゆくことを目ざす重要な会議で、期待を込め「創立42周年における重症心身障害児(者)と共なる新たな出発を」というテーマで開催されました。会議は久山療育園から3名の発題(①山田理事長、「久山療育園とキリスト教社会福祉」創立理念に立ち続ける久山療育園であるために)②宮崎センター長、「久山療育園の今後の役割・在宅支援体制」③金子

地域療育部長、「久山療育園の現状、在宅支援の動き―相談支援―」に加えて今回は外部からお招きした2名の講師による提言(①横田信也北九州市立総合療育センター地域支援室長、「重症児施設」の現状と今後―総合療育センター―)②三宅大介西日本新聞編集局報道センター生活特報部編集委員、「在宅家族の思い」を基に金子地域療育部長の司会で質疑応答と全体討議が行われました。

発題、提言による討議全体から医療的ケア児の問題も含め障害の重度化と親の高齢化が進む中で在宅重症児家庭が置かれている厳しい現実と医療をベースとした重症児者の療育(QOL、生活の質の豊かさ)の充実を求める多様なニーズがあることと、それに応え在宅を支えるセンター的機能が今、重症児者施設に期待され、求められているということ強く認識させられました。在宅支援のニーズを傾聴しつつ短期入所・通所事業更には「在宅支援棟」と重症者グループホーム(重症者ホーム

ひさやま)から成る「在宅支援センター」を軸とした在宅支援の取り組みの一層の拡充の必要を確認出来た会議となったことに感謝しました。

重症児者の医療療育の実際の問題とは離れますが、社会福祉法人改革のもとで法人のガバナンスの強化の取り組みが進められてゆく中でキリスト教社会福祉施設として創立理念に立ち続けるためのガバナンスが大切にされなければならぬことを理事長として発題したことを附記したいと思えます。

久山療育園は「見えるもの」ではなく、見えないものに目を注ぐ。見えるものは一時的であり見えないものは永遠につづくからである(コリント第二の手紙4章18節)という創立聖句を戴き1976年にバプテスト教会の信仰によって創立されたキリスト教主義の重症児者施設です。キリスト教主義の重症児者施設であるということはその働きの内容においてキリスト教が2000年の歴史をとおして大事にして来た人間ののちの尊厳に関する普遍的な倫理に基づいて重症児者の医療療育が行われる事業体だということです。そのキリスト教主義の理念を継承してゆくためのガバナンスが行政指導や事業体の自立化(事業運営の機能重視)の流れの中で弱められたり損なわれたりすること

があつてはならないということを感じるからです。

二、日本バプテスト連盟の年次総会への出席について

ここ数年日本バプテスト連盟の年次総会(以下年会)と西日本重症心身障害施設協議会の開催日が重なり、いずれも重要な会ですがどちらの会議に出席するか二者択一の選択が迫られる形になっていきますが、今回私はバプテスト教会とのつながりを重んじ園を代表して連盟の年次総会に出席させて頂きました。園の開設と年会は深いつながりがあり1976年の開設以前の準備段階から、特に開設時の前後、守る会と友の会が連繫して天城山荘の大チャペルに至る30メートル近い渡り廊下

いっばいに「久山療育園重症児者運動」を推進するパネルを貼り出し活動をアツピールし、協力の呼びかけが行われて来ました。バプテスト教会をベースとして誕生したバプテストコロニー友の会の支援に支えられ久山療育園開設時の歩みが導かれたということを感じます。開設時、医師の定員割れの危機を九大医学部を出られた若手医師のボランティア奉仕(夜間)によって支えられたこと、1981年の30床増床工事において公的補助1.5億円と寄付によ

る自己資金3000万円を加えて尚3000万円不足が生じた際、コロニー友の会(教会)からの年間500万円の寄付収入が返済の担保能力として認められ、社会福祉事業振興会より3000万円の借り入れが出来、2億円の工事費の調達が成ったこと、教会をベースとしたバプテストコロニー友の会からの支援によって久山療育園の誕生と誕生後これ迄43年の歩みが導かれたことを忘れてはならないと思っています。

連盟直属の事業体でない久山療育園は西南学院・西南女学院のように年会において事業報告をする特別の時間が与えられず、連盟内で福音に基づく信仰の諸課題を担って活動している諸団体と一緒に、「提唱の時間」(限られた3分間)に活動をアツピールするしか出来ませんが、私は今回は特に心を込めて教会を代表して出席された代議員の方々に50年に及ぶ祈りと支援に対して心から「有り難うございました」という謝辞を述べさせて頂きました。提唱でのアツピールの他は平素久山療育園とコロニー友の会のご協力をお願いしている方々に親しく挨拶をさせて頂き、これからの一層の協力をお願いし務めを果させて頂きました。

制度・情勢

第47回福岡県重症心身障害施設協議会報告

センター長 宮崎 信義

はじめに

「福岡県重症心身障害施設協議会」は、故・川野直人初代理事長と国立病院機構福岡病院名誉院長の西間三馨先生が発起人として開催され、11月29日(木)で第47回を迎えました。半年ごとの開催ですの24年目に入ったこととなります。参加総数は42名(国立病院機構17名、公法人立施設22名、県障がい福祉課3名)でした。

福岡県下の公法人立重症心身障害施設と重症心身障害病棟を持つ国立病院機構3病院が一堂に会して情報交換や協議をする集いで、数年前から福岡県福祉労働部障がい福祉課からも参加して頂けるようになりました。このような集いは、個別の目的で組織された連携機構を除くと、全国でも例を見ないとのこと。今回も11月15(16日)に鳥栖市で開催された第39回西日本重症心身障害施設協議会からの報告(行政説明、シンポジウム、感染症や骨折に関する年間アンケート調査など)、国立病院機構の働き、参加施設・病院の紹介や事業と課題、福岡県福祉労働部障がい福祉課からのお知らせなど、有意義な情報交換ができました。以下に、その概要をお知らせ致します。

I. 公法人立施設から「平成30年度西日本重症心身障害施設協議会報告」

詳細は「西日本重症心身障害施設協議会報告」に譲ります。内容は、①行政説明「医療的ケア児等への支援について」、刀根 暁氏(厚生労働省障害福祉課障害児・発達障害者支援室)から。②シンポジウム「ライフステージに沿った支援の現状と課題」・①「重症児者の相談・診療・療育リハビリへの流れ」(児童発達支援)、②「重症者ホームひさやまの紹介」(重症心身障害児者グループホーム)を併設して3年後の評価と課題(成人となった重症心身障害者)、③「グリーフケア(残された者の悲嘆のケア)について」(高齢期・終末期医療)と全年齢層に渡る支援の在り方を協議致しました。全体会(調査報告)として、「インフルエンザとその他の感染症」及び「平成28年度施設内骨折アンケート報告」でした。

II. 独立行政法人 国立病院機構の動向

①国立病院機構重症心身障害協議会の運営は、中川会長(四国こどもとおとなの医療センター院長)から、次年度は奥谷院長(広島西医療センター)へと引き継がれました。②国立病院機構の状況として、(1)

重症心身障害児者医療「医師を育てる研修」・本年度2回開催(長良病院、福岡病院)が計画され、12月6(7)日は福岡病院が担当し全国から27名が受講します。また主題別の講演については自由参加とし、国立病院機構に限らず申し込みを歓迎することです。(2)個別支援計画実施・筋ジストロフィーから記録を提供。(3)国立病院機構重心協議会教科書・改訂作業中(第2版)。(4)SMID(重症心身障害児者データベース)の継承を検討している。(5)研修ないしワーキンググループの提案(院内感染対策、摂食嚥下機能、管理者研修など)。

III. 福岡県福祉労働部障がい福祉課からのお知らせ

福岡県福祉労働部障がい福祉課社会参加係・信國謙吾係長が代表して、以下のアピールをされました。(1)医療的ケア児者実態調査(平成30年6月中旬以降に実施された)①対象は医療的ケア児者及びその介助者、②内容:障がいの状況、必要な医療的ケア、かかりつけの医療機関、日常生活の状況、家族・介助の状況、サービス利用についてでした。回答数は292回答で、医療的ケア児は約400名、近日中にホームページで公表する予定とのこと。

(2)医療的ケア児等コーディネーター養成研修(平成29年8月から実施)①対象は相談支援員、医療機関職員。②内容は医療的ケア児等の症状に応じた医療・福祉支援に

ついて。③実習期間は相談支援員4日間(講義2日間、演習2日間)、医療機関職員2日間(講義2日間)です。福祉の窓口がさまざまにある中で、「ここに相談すればすべてに対応できる」という働きが求められます。

(3)福岡県「重症心身障害児(者)短期入所設置支援事業」・平成26年度以降5年目になります。対象は介護老人保健施設及び一般医療機関の看護師・介護職員で、9月に37事業所(施設)に受け入れ状況が紹介されました。平成29年度の利用は約4,800人(実数は約380名)、延9,000日でした。福岡県内の13ヶ所の保健福祉圏域で医療型重症心身障害児(者)短期入所が実施できるようになりましたが、重症心身障害施設以外でも身近で短期入所サービスが受けられるようになることが期待されています。

IV. 各施設情報交換・施設の動向、感染症など

①重症心身障害研究会について:平成31年3月9日(土)9:00(16:00)九大医学部百年講堂で開催され、主催は国立病院機構(NHO)福岡東医療センター、共催は久山療育園重症児者医療療育センター及びNHOO大牟田病院です。

②がん医療の実態調査へのご協力をお願い・NHOO福岡病院から臨床研究部長・本荘 哲。

③平成30年度重症心身障害児者医療に関する研修会について(平成

30.12.6(7)④感染症報告施設ことから抜粋)・現在は原因不明の呼吸器感染症が10数名に発生している。ヒトメタニューモウイルス感染症(hMPV)が発症。発熱者12名のうち10名がhMPV RNAが検出。注)平成28年4(5)月にhMPV感染症が60名中で50名が発症した。職員家族のインフルエNZア発症で職員が欠勤し、業務に支障が生じることが懸念されたことです。例年に比べて感染症報告では、大略、今季は重篤な呼吸器感染症の発症は見られず、尿路感染症が相対的に増加していました。

感染症予防策として、職員全員がインフルエンザワクチンを接種した施設、予防接種の費用等を施設から補助した施設。4種のウイルス(麻疹・風疹・水痘・ムンプス)の抗体価を測定し、抗体価性が弱いか陰性の方にはワクチンを接種した。職員も希望者には推奨接種しています。

⑤悪性腫瘍の増加に伴い、重症心身障害児(者)の終末期医療について検討しています。

V.1. 福岡県北部在宅重症児者連携会議

2018年11月21日に久山療育園重症児者医療療育センターで開催されました。参加者は26施設、42名でした。九大・福大・NHOO福岡病院からの参加もありました。会議の目的は、在宅重症児者のための各事業所間の情報交換とネッ

トワーク作り及び事業所間の情報共有と各事例の検討です。報告からは、マンツーマンの対応が求められています。平成30年度の障害福祉サービス内容改定について、日中の特定短期入所事業所も利用され、訪問看護事業の役割も大きいとのこと。

V2. 重症心身障害福祉協会認定専門看護師研修(九州沖縄地区)

重症心身障害福祉協会認定専門看護師研修(九州沖縄地区)は、今年で5期生が修了しました。今年の協会認定看護師の合格発表について、全国では455名が認定(合計7期)されたと報告されました。現在までの実績の振り返りと今後の予定：現在研修中の5期生(18名)は9月15日に研修が修了し閉講しました。これまでで約70名が受講したことになります。九州沖縄地区

平成30年度西日本重症心身障害福祉施設協議会報告

はじめに

「平成30年度第39回西日本重症心身障害福祉施設協議会」は、11月15～16日に鳥栖市で開催されました。本年度のテーマは、『利用者のライフステージに沿った支援の在り様と施設運営を考える』で、加盟67施設中63施設(登録255名)が参加しました。主なキーワードは、「在宅支援」と「医療的ケア児」、「年齢の多様性」があげられます。以下に行政報告と協議を中心にご報告致

区では、施設平均で約3名の協会認定の重症心身障害専門看護師が誕生することが予測されます。来年度は7月に6期開講予定です。

おわりに

以上、障がい児者福祉・児童福祉・高齢者福祉それぞれに重要な課題を示され、真正面から取り組んでいます。利用者との連携や行政・制度の制約と、人権や生命尊重、一人一人の発達支援から人材育成まで協議は尽きない思いが致しました。歴史を概観致しますと、障がい児者・児童・高齢者、いずれも平和が失われる時に弱者として切り捨てられた負の歴史があります。福祉に働く者としてだけでなく平和を実現する者(マタイによる福音書5章9節)としての使命も与えられています。

します。

行政説明(厚生労働省)

厚生労働省障害福祉課障害児・発達障害者支援室の刀根 暁氏から、「医療的ケア児等への支援について」を中心に行政説明がなされました。以下に要点をお示しします。

- ① 医療的ケア児者に対する支援の充実
- 医療技術の進歩等を背景として、

人工呼吸器等を使用し、たんの吸引などの医療的ケアが必要な障害児(医療的ケア児)が増加している中で、個々の障害児やその家族の状況及びニーズに応じて、地域において必要な支援を受けることができるよう、サービス提供体制を確保する。一看護職員加配加算(障害児老通所施設)、常勤看護職員配置加算(生活介護)重度の障害者の支援を可能とするグループホームの新たな類型の創設(日中サービス支援型)

○ 障害者の重度化・高齢化に対応できる共同生活支援の新たな類型として、「日中サービス支援型共同生活援助」(以下「日中サービス支援型」という)を創設。

○ 日中サービス支援型の報酬については、重度の障害者等に対して常時の支援体制を確保することを基本とする。なお、利用者が他の日中活動サービスを利用することとを妨げることがないような仕組みとする。

○ 従来の共同生活援助よりも手厚い世話人の配置とするため、最低基準の5・1をベースに、4・1及び3・1の基本報酬を設定。

○ 住まいの場であるグループホームの特性(生活単位であるユニットの定員等は従来どおり維持しつつ、スケールメリットを生かした重度障害者の支援を可能とするため、1つの建物への入居を20名まで認めた新たな類型のグループホーム)。

○ 地域における重度障害者の緊急一時的な宿泊の場を提供するため、

短期入所の併設を必置とする。

② 医療的ケア児について

○ 医療的ケア児等コーディネーター養成研修等事業・人工呼吸器を装着している児童その他の日常生活を営むために医療を要する状態にある児童や重症心身障害児等以下「医療的ケア児等」という。地域で安心して暮らしていただけるよう、医療的ケア児等に対する支援が適切に告げる人材を養成するとともに、「医療的ケア児等の支援に携わる保健、医療、福祉、教育等の関係機関等の連携体制を構築することにより、医療的ケア児等の地域生活支援の向上を図ることを目的とする。↓事業内容――(1)

医療的ケア同等を支援する人材の育成、(2)協議の場の設置。

○ 医療的ケア児数・平成28年18,272名。

シンポジウム「利用者のライフステージに沿った支援」

平成27年5月15日に開催された全国重症心身障害福祉協議会で行われた厚生労働省「行政説明」の骨子で、「重症心身障害福祉の概要」の目的では、①生命を守り、ひとりひとりのライフステージに応じた児者一貫した療育・支援の実施、②施設支援と在宅支援を推進が述べられました。しかし障害者自立支援法から総合支援法に改正されても、守る会が要望した「児者一貫」は制度上実現しませんでした。私は、年齢層が異なっても一人の

人としての尊厳や掛け替えのなきは、何ら私たちと異なるものではなく、また不変の理念だと思っております。今年の西日本重症心身障害福祉協議会のシンポジウムでのテーマが、『利用者のライフステージに沿った支援』と掲げられ、児童から成人、そして高齢期の重症心身障害児(者)に焦点が当てられることは、まことに望ましいことだと思えました。そのうち成人期の支援、特に注目されている重症心身障害者のグループホームについて提言してほしいとのこと依頼には喜んでお応えしなければとお引き受けしました。それがその生活の質から人生の質が高められる要点だと思えます。

①シンポジウム「重症児者の相談・診療・療育リハビリへの流れ」(児重発達支援)

小林明氏(療育医療センター「若楠療育園」副園長)

○平成29年度小児発達外来受診者について(診断書など)

○小児発達外来の現状(まとめ1)：2011年～2017年の7年間に、鳥栖市内8小学校で特別支援学級を利用する児童は2.7倍に増加。

○小児発達外来の現状(まとめ2)：2017年度(平成29年度)、小児発達外来初診は249名で、男女比は5.1であった。

②シンポジウムⅡ「重症者ホームひさやまの紹介」→重症心身障害児者グループホームを併設して3年後の評価と課題。

宮崎信義(久山療育園重症児者医療療育センター長)

1. 「重症者ホーム(GH)併設の経緯」2009年度から開始された「在宅支援プロジェクト」委員会各部署・各職種の代表によって協議と調整が積み重ねられ起案され実施された。

2. 久山療育園の地域生活支援(在宅支援の基地となる「在宅支援センター」開設(2015年7月)。

3. 「重症者ホームひさやま」の役割と課題・安全・安楽・安心を支援しつつ家庭に近い住居と日中活動を提供する。そのために、利用者やご家族の満足度の評価(保護者アンケート調査を実施)→3年後の評価を行い、ホームの機能を高めていく。

4. 地域との連携の推進・久山町の諸行事への参加、園外活動、福岡市内の教会の招きに参加(平尾教会「こひつじの園ランチカフェ」)

5. 「重症者ホームひさやま」の医療的ケア・医療的ケアと医療支援の評価・隣接するセンターの支援による医療的ケアの効果が、入院の必要等の統計では、3年間で2件にとどまった。これは医療依存度が低い方(重度障害児スコア3以下)を人居適応としたことにもよるが、センターの日中及び夜間の外来診療や看護ケアに負うところが多い。成人病(不整脈・高血圧)に

伴う専門医(他院)受診があったが外来治療にとどまった。——詳細は年報等を参照願います。

6. 「在宅支援センター」(重症者ホーム)及び「在宅支援棟」の経営評価・建築費は在宅支援センター全体で、総工費Ⅱ約5億1,136万円を費やし、さらに「社会福祉充実残額」として蓄えている資金を将来計画積立及び支援者の献金と共に重症児(者)及び職員の出遇として活用し、地域に対しても社会還元していくことが求められています。また年間経常運営費については、年間約3,230万円の赤字が計上されているが、これも「障害福祉サービスへの再投下」として捉えられます。支援を受けつつ最大限の合理的運営を行った上での赤字会計ではありませんが、日中活動は「通所事業」・「訪問事業」・「相談支援事業」(在宅支援棟を利用することで当センターの理念にもかない、決して赤字だからという否定的評価で萎縮するのではなく、スタッフの士気は「それでもチャレンジする理由がある!」と高いのです。

7. 久山療育園の創立理念から、福祉共同体の発信から「地域社会で重症児(者)と共に生きる」という実践課題が目に見えてきつつあります。このことは、平成28年度社会福祉法改正で強調された「事業運営の透明性・地域における公益的な取組」が通園モデル事業(平成2年)から「在宅支援プロジェクト」において既に実践途上にあることを示

しています。

8. まとめと今後の課題

①医療依存度が重度化した場合の医療病床への移動・これは開設4年目の今年11月に最高齢の方が合併症で元の医療病床に戻られました。②医療入院や専門医療機関への転院がふさわしくないと判断された入居者の看取り。③日中活動の多様化。④家族との連携の推進。終の棲家としての重症者ホームの役割・将来を見据えて。⑤地域との連携の推進・地域の施設や教会が主催する行事への参加が実施されています。

③シンポジウムⅢ「グリーンケアについて」

福田雅文氏(みさかえの園総合発達医療福祉センター「むつみの家」施設長)

「看取り」と「グリーンケア」との関連・「看取り」とは旅立ちへの支援で、日常的な医療や生活・心のケアが中心となります。一方、「グリーンケア」とは残された家族の悲嘆に対するケアで、家族が立ち直れるように支援するものです。「グリーンケア」は悲嘆、深い悲しみを言い、家族が大切な人を喪失したことから立ち直ることの援助に働くことです。

施設でのグリーンケアとして、その人らしい旅立ちをお支えし、同時に家族の心のケアと再構築のケア及び一緒に暮らした仲間たち職員のケアをも大切にしたいと思っています。むつみに家では5〜6年

前から、お別れ会を行い、「天使のミサ(追悼ミサ)」として読んでいます。

事例紹介・3人の方の終末期に寄り添った経験をお示ししました。全員、悪性腫瘍が原因でした。

「お別れ会」、「葬儀ミサ」はご家族と相談しながら実施されますが、昨年にお「看取り」をした方のご家族も参列されました。

感染症アンケート調査報告

○インフルエンザ等について・平成29年4月1日〜平成30年3月31日(62回答/65施設)

1. ワクチン接種(季節性)は、①入所者・全員接種27施設、95%接種33施設、90%接種2施設など、②職員(62回答)・全員接種8施設、95%接種17施設、90%接種18施設などでした。

2. インフルエンザ発症①複数回発症④施設、施設・病棟単位①19回答、単発①18回答、発症なし①21回答。

3. 病棟閉鎖の内容・入所者の病棟外移動①57施設、家族の面会①48施設など。

4. インフルエンザ以外の感染症(61回答)・流行あり①9施設、流行なし①52施設。(疾患)呼吸器感染症①8施設(感染率6〜34%)、RSウイルス①3施設(18%、37%)、原因不明の消化器感染症①1施設(28%)。

平成28年度施設内骨折アンケート報告

平成28年度の年間骨折数は、217件(3.33%)で昨年までをやや上回りました。年長化や骨粗鬆症の重度化が主な要因と思います。その他、①50歳代が最多、次は40歳代、60歳以降、30歳代。②運動発達レベルではI群(寝たきり群)が87人(43%)と多く、発生率はIII群が4.54%と最多でした。③骨折部位は手部(24.8%)が増加、次いで足部(20.8%)、大腿部(19.5%)、下腿(13.7%)等でした。

おわりに

以上、第39回西日本重症心身障害施設協議会の報告を行いました。次期開催は、2019年11月14〜15日(木・金)、ANAクラウンプラザ米子(米子市)です。これからも5月の全国重症心身障害施設協議会におけると同様に新しい情報をお届けしたいと思います。

支援者からの声

「福音の醍醐味に出会う時」

平尾バプテスト教会／ボランティア世話人代表 平良民枝



緒に子どもたち6〜7人が参加します。

他にも地域にお住まいの重度の知的障がい、不登校の子どもたちや、ひきこもり、精神障がい、身体障がい、いろんな生き辛さを抱えた皆さん、その親たち、元気なものも、疲れたものも、いろんな皆さんがごちゃ混ぜの中で過ごしています。

「みんな違って、みんな素敵！」を体験するみんなの居場所作りです。

このカフェは、2017年4月より始まりました。久山の皆さんが、地域に出かけてきて下さることの大きな意味を、2年目を終えようとしている今、改めて感じています。

「こひつじの園ランチカフェ」には、久山の皆さんをはじめ、障がい者支援事業所「しあわせ駅大野城」からも、毎回スタツフの皆さんと一

ど、自由に過ごしています。

いろんな個性の違う者が集まり、ごちゃ混ぜにいるのは、『こうでない』と、とかく狭い視野になりがちの私たちの視野を広げてもらい、自由に一人ひとりが解放されて、みんながゆつくり息ができる空間になっていくようです。ベットに横になって寝たまま参加する人、じつとできなくて、ウロウロしている人、じつと座っている人、忙しく働いている人もそうでない人も、混ざり合って、温か〜い、『この雰囲気は、癒されます』と、参加者の多くの皆さんが言われます。一人ひとりが参加者であり、スタツフです。人は皆、何かの障がいを抱えながら生きて

思っています。まさに、久山の皆さんが地域に出かけてきて下さり、赤ちゃんから高齢者まで、いろんな皆さんと触れ合うことができるこの空間は、共に生きる福祉社会作りの原点になっているようにも感じています。

ようにも思います。そして、ランチカフェに来て一緒に遊ぶことは、そんなに難しいことではないと、普通のこととして感じはじめている姿に、その変化に、希望をいただいています。

先日、重度の知的障がいを抱えた20歳の男の子のお姉さんが、初めてランチカフェに参加されました。お姉さんは、小さな子どもから、大人まで色んな皆さんに囲まれて過ごしている弟を見て、「弟は、生まれた時から小学校時代も支援学級だったし、養護学校をへて、今は作業所でお世話になっていきます。彼の回りは、いつも家族と障がいで溢れていました。健常者も、また障がいのありようも色々の皆さんがこんなに混ざり合って一緒に遊んでくれる弟の姿を見るのは初めてです。」と、感激して言われました。

まさに久山の皆さんの支援をいただいで地域が変わる、私たちが変えられる価値観の転換、それはまさにイエスさまの福音の醍醐味に出会うそんな時になっています。

10:00〜15:00の間に、自由に来たいときに来て、帰りたいときに帰る。ランチの前には子どもたちは学習を見てもらったり、音楽や、演劇、味噌作りなどなど、自由に楽しむ、ランチはバイキング形式でいただきます。ランチ後も、ゆつくりおしゃべりカフェに花が咲きます。自由に卓球するもの、木工や、英語であそぼう、紙芝居の時間な

2018年10月20日号の『支援者の声ーあなたの隣人は誰かー』文中に編集ミスによる誤記がありました。終わりから8行目、『障害』を『生涯』へ、お詫びと共に訂正させていただきます。

(編集局)

第49回 久山療育園公開講座

「在宅重症児者との共生と支援」
障害児者の医療・福祉に引き合う社
会分析」とテーマを掲げ、2018
年11月6日交流ホールにて公開講座
を開催しました。

聴講者数は一般参加者と当園職員を
合わせ100名超となりました。

午前中は特別講演の講師として、
西日本新聞社生活特報部編集委員の
三宅大介氏をお招きし、午後からは
3名のシンポジストを加えてシンポ
ジウムを行いました。

三宅氏はこれまで「とまり木ど
こに」「傾聴記」といった記事を西日本
新聞に掲載されており、様々な視点
からのルポルタージュを通して、障
害児者とその取り巻く環境について
読者に問題提起をしておられます。
また、三宅氏のご長男は重症心身障
害児で、在宅でご家族とともに介護
をされているという側面も持ち合わ
せておられます。講演では新聞記者
としての客観的な見解と障害児を持
つ親の心情を次々と述べられ、その
言葉のなかには経験した者でなくて
は思い描けない内容がたくさん散り

ばめられていました。

特別支援学校に在籍する医療的
ケア児は年々増加傾向にあり、現
在は学校に看護師を配置すること
に併せて、一定の条件で教員も痰
の吸引などができるようにはなっ
てきているがまだまだ制約が多い
ことなど、行政の在り方にも目を
向けた内容もお話されました。し
かし、「現在あるサービスが拡充し
てきたのは、今まで、同じように
医療的ケアが必要なお子さんを抱
え、自宅で苦勞しながら育ててき
た親御さんのほか、在宅生活を何
とか支えようと頑張つてこられた
支援者、関係者の方々の熱意のた
まものだと思う。そのことを当事
者として感謝したい」と話され、さ
らに「医療・福祉・教育の縦割りの
機能がそれぞれの枠を超えて何が
できるのか。知恵と試行錯誤を欠
かしてはならない」と講演を締め括
られました。

午後からのシンポジウムには、
二日市徳洲会病院院長の今嶋達郎
氏、指定訪問看護ステーションい
ちばん星管理者の山下育代氏、在

宅重症児者家族の中野智見氏にお話を
いただきました。今嶋氏は小児科の急
性期病院と重症心身障害児者施設の中
間施設としての取り組みを紹介されま
した。山下氏は訪問看護を通して、家
族の抱える様々な悩みや相談に向き合
い、解決に結びつけていっている現状
をお話しされました。中野氏は在宅で
二人の障害児を持つ母として、これま
での12年間の様々な経験を率直にお話
してくださいました。3名のシンポジス
トのお話は、それぞれの立場で真剣に
立ち向かっている姿を彷彿とさせ、そ
の思いは参加者一同に印象深く残るも
のとなりました。

終了後の一般参加者へのアンケート
では、割合として看護師の回答数が多
く、その内容も「もっと自分たちもご家
族に寄り添った看護をしていきたい」
「もっと現状を知りたい」といったこと
が多かった反面、看護師不足に悩む現
場の声も明らかになりました。

今回の公開講座は、在宅重症心身障
害児者に対する状況の難しさや複雑さ
を改めて学ぶ機会となりました。日常
的に関心をもって考えていく大切さを
再認識することができたとても意義深
い一日となりました。

(研修委員長 笹倉典子)



秋祭り

スリルと感動！秋祭り

木々が秋へと変えるこの時期、園内はちよつぷり怖くてドッキドキ！怖い顔をしたカボチャお化けの提灯や蜘蛛の巣が園内あちこちに出没しだすからです。そして、すっかりハロウィン色に染まった10月27日！久山療育園の“秋祭り”が開催されました。

午前中、交流ホールは遊園地へと姿を変え、多くの方々と賑わっています。座位保持装置で体感するスリル満点のジェットコースターやガタガタ道。その他にも触れる・聴く・動かすなど、まさに体感型遊園地！クイズに正解しないと出られない、お化け屋敷ながらの巨大迷路！ドッキドキしたなあ☆二階ではアークセサリを作ったり、長い剣やポールでモンスターをやっつけたり、フォトスタジオもあり盛りだくさん。昼食を頂いた後は、いよいよ二部の始まりです。

優雅でゆったりとした手の動きのフラダンス。しなやかさの中にも軽快なリズムを刻むステップや腰の動きにうっとり。最後は皆で“サザエさん”盛り上がりましたね！

続く久山榎太鼓の皆さんの演奏は迫力満点。魂の奥まで響く音色にしびれ感動で涙が出そうになりました。最初は太鼓の音に驚いていた利用者さんも全身で鼓動を感じ、目をキラキラさせ、皆さんそれぞれの表現で演奏を楽しんでいる様子が印象的でした。このような素晴らしい秋祭りが出来たことを感謝致します。ご参加ご協力頂いた皆様、本当にありがとうございます。

(めぐみ棟介護福祉士 城戸知子)



めぐみ棟の活動

深まる秋を楽しんだ園外活動

今日は武田さんとの待ちに待った園外活動です。椅子に乗せられる人工呼吸器をつけて出発！バスに乗るとどこからともなく「さんぽ」の音楽が！付添いの先生がオカリナを吹いてくれました。優しい音色でスタートです。

途中で一面のコスモス畑を発見！久山にこんな美しいところがあつたなんて！コスモス畑をバックに写真を撮り、秋の自然と風を楽しみました。

次に到着した場所は、イオンモールのクルル。ハロウィンフェアイベントがあつている中、秋色のお洋服や明るい色のパジャマなどたくさん買いました。最後に大好きな絵本を買ってお買い物は終了！あつという間だったけれど楽しそうに笑っていた笑顔が忘れられません。帰りに買った絵本を読むとじつと聞いて楽しまれていました。先生がとってくれた写真は花に負けずと可愛く撮れていました。お部屋に飾っています☆

また一緒に行きましょうね。

11月5日。小春日和が心地よく、バスに乗って園外活動に出発！

久しぶりの外出でちよつぷり緊張の正裕さんでしたが、移動中の景色の変化をジツと見つめ、少しずつリラックスしてきた表情。

“どこにいくのかな”到着した場所は駕与丁公園。お母さんが村津さんに日傘を差しながらの散策。紅葉が美しく、水鳥の姿も見えました。誕生月の正裕さ



んにサプライズ！！ご両親 職員の仮装で記念写真をパチリ☆素敵な笑顔を見せてくれました☆
また、一緒にたくさんさんの楽しみを見つけて行きましょうね。
(めぐみ棟看護師 大坪ゆき／本庄友美)

ひかり棟の活動

楽しい音楽と似顔絵！ アートムジカの皆さんと

まだまだ暖かい日が続く、暖冬の中、11月27日にアートムジカの3名の方々が訪問に来てくださいました。

ひかり棟の利用者の皆さんは美味しい昼食を済ませ、デイルームにみんな集合です！

利用者の皆さん、「何かいつもと違うぞ、なにか始まるぞ〜」と感じ取っているのか、ワクワクしているようでした。皆さんお待ちかねのアートムジカの皆さんが登場！ステキな歌やエレクトーンの演奏を聞いたり、踊りを見ました。利用者の皆さんはニコニコしながら、身体を動かしたり、揺らしたり、たくさんの笑顔や笑い声で楽しんでいる事を表現してくれました。

そして利用者の皆さんの目の前にはホワイトボードが表れ、白い大きな紙が用意され、何やら道具がチラホラ見えます。どうも絵を描く様子ですが、筆が見当たらないような…。

1番最初はハサミを当てて、その上から霧吹きをシュツ、シュツと吹きかけながら、エレクトーンの演奏と歌に合わせ、なにやら模様のような…何かが？でもその周りをスポンジで黄色い何か描いているけど、まだまだ分かりません…。そうこうしていると目や鼻や口のような…？そして演奏が終わると出来上がったのはライオンの顔の絵でした。

そして次の歌と演奏が始まり、今度はフライ返しでペタペタと、今度は青い何か描いているけど、またまた何が描き上がるのか全然分かりません。だんだん何だか羽のような…クリスタルの飾りを付けて、キラキラした紙を吹きかけるとみごとな白鳥の絵が現れました。

何が出来るのか分からないワクワク感を利用者の皆さんと一緒に味わいながら、出来上がった時は、スタッフのみんなからも一緒に拍

手や歓声が上がっていました。

そして最後はリクエストで、今月の誕生者のお二人、永石さんと高瀬さんの似顔絵を描いていただきました。とてもソックリでとても記念になる素敵なプレゼントでした。

あつという間の時間でしたが、ワクワク、ドキドキの楽しい時間を過ごすことが出来ました。

アートムジカの皆さん、本当にありがとうございました。

(ひかり棟介護福祉士 浦田秀文)



安らかに

堀江智春さんは、1983年6月に久山療育園に入園されました。

智春さんはとても元気いっぱい、いつもひかり棟を賑やかにしてくれていました。大好きなおもちゃで遊んでいる時の大きな声や、スタッフと散歩に行った時の満面の笑顔など様々なことが思い出されます。

とても好奇心旺盛な智春さん。知らない物や気になるものがあると、つい手を伸ばさずにはいられません。時々その大胆な行動にびっくりさせられることもありましたが、自分でバチを持って楽しそうに太鼓を叩いたり、おもちゃを振り回して遊んでいる時の嬉しそうな声には、いつも癒されていました。

今年7月に41歳の誕生日を迎え、スタッフや家族の方から盛大にお祝いしてもらって、嬉しそうにニコニコしていました。

家族と過ごす時間も大好きだったようで、7月は面会時にはとてもリラックスした表情で、自分から家族の方へ近づいていく様子も見られました。2階の宿泊部屋で家族みんなと過ごした時間は、智春さんにとっても大切な思い出になったのではないのでしょうか。

いつもパワフルで、私たちに元気をくれた智春さん。お別れはとても寂しいですが、私たちは、智春さんと過ごした楽しい日々の思い出をいつまでも忘れません。

どうか、元気いっぱいの素敵な笑顔で天国から見守っていて下さい。智春さん、本当にありがとうございました。

(ひかり棟児童指導員 佐伯諭)



通所で頑張っています

秋の親子ワークショップ

10月26日、通所で初めてとなる行事「秋の親子ワークショップ」を行いました。

“親子でモノづくりを体験しよう”をテーマに、見る・聞く・触れる・香るなどの感覚を楽しみながら体験ができるようなワークショップを計画し、スタッフは試行錯誤しながらもワクワクした気持ちで準備を進めました。

迎えた当日、会場には「和」をテーマにした、みそ丸作り・ふりかけ作りコーナーと「洋」をテーマにした、コースター作り・多肉植物寄せ植えコーナーの4つのブースが並びました。オープンと同時に行列ができた各ブースでは、どんな模様にする？どんな味にしよう？どんな香りがするかな？と悩まれる親子の姿や、わあ!!なに〜!!と目を見開き、口を開けてしまう利用者さんの姿。また、ワークショップ以外にもスタンブラリーやポプリ作りで空いた時間を過ごされる皆さんもおられました。

今回いろんなモノ作りを体験してほしいという思いから1日ゆつくりと過ごして頂くとうと昼食時にはワークショップたちばな様にも販売をして頂きました。

初めて行う企画ということで、期待と不安の中迎えた当日でしたが、利用者さんと保護者の皆さんがモノ作りを楽しまれる様子が各ブースで見られ、私たちスタッフは嬉しく思いました。参加して頂いた皆さん、ありがとうございました。

(通所療育員 松元りか)



どこにどの多肉植物を配置しよう？



ふりかけ、どんな味にしようかな？

主の御名を讃美いたします

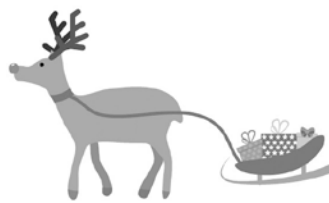
12月14日、通所のクリスマス会が約130名参加で開催されました。

第一部の礼拝では全員で「きよしこの夜」等を讃美し、お話しを通じて「イエス様が世の救い主としてお生まれになり、いつもそばにいて下さる」とのお話を聴きました。祝祷の後、会場点灯がされた第二部は、華やかな赤や青のドレス姿の歌手ピアニストが登場。本格的な演奏にうっとりしました。座席のすぐそばまで近寄って写真撮影やアンコールの後、花束贈呈の利用者さんは少しドキドキしながら笑顔で大役をつとめました。

第二部終了後は昼食。ローストビーフ、ケーキなどのクリスマス献立を食し、一年間を振り返る楽しいビデオも見ました。午後は第三部。スタッフのパフォーマンスです。かつての人気テレビ番組ドリフトーズ、白いガウンの元少女少女達が厳かに英語歌詞でホワイトクリスマスを熱唱していました。突然怪しげなメロロイでの爆笑ダンスと変わり、早口言葉大会が始まりました。スタッフが墨で手書きした目次が次々に進むたび家族の方々も、「生麦生米生卵」等ダンスしながら明るく披露、大盛り上がりで拍手喝采です。今年のプレゼントは小物入れ布袋です。通所で行っている一人ひとりの特性に合わせた活動内容から、手で握れるように工夫したスポンジに色絵具を付け布にポンポンと押ししたり手足の跡を使つた



素敵な歌声とサンタにみとれてしまう〜



陽気な音楽に合わせて…♪

スタンブ押し、ステンシルなど、それぞれ個性的な模様を作り出して世界で一つの絵柄の袋が完成しました。会場は笑顔があふれ祝会のお料理も美しく栄養課のみなさんの愛情いっぱい。来年も健康で元気に通所でお会いできますように。(通所看護師 小島雅子)

重症者ホームひさやまより

こんにちは！重症者ホームです。今回は11月24日に行なった鍋パーティーと12月24日のクリスマス会について紹介したいと思います。

寒くなり体を温める鍋が恋しい季節になりました。今回、鍋パーティーを実施するに当たり、「季節の料理・秋の味覚を楽しむ」「皆で鍋を囲み、普段とは違った環境で食事を楽しむ」を目的として取り組みました。また、事前アンケートを取り、食べたい鍋の種類、食べた食材を各自入居者・担当職員に記入してもらい、それぞれの希望を調査し当日まで皆でドキドキしながら、どんな鍋が出てくるのかわからないといった楽しみも一工夫加えました。アンケート結果は、寄せ鍋と温泉湯豆腐鍋に決まり、温かい鍋を囲みながら各々好きなように鍋に舌鼓をうっていました。中には、3杯も4杯もお代わりする方もおられた皆さんの笑顔を見る事が出来ました。その後は、デザートビュッフェやクリスマス飾り等も行い終始笑顔が絶えない時間を過ごす事が出来ました。

楽しかった鍋パーティーが終わったらすぐにホームはクリスマス一色。みんなが一生懸命飾りつけたツリーがキラキラと光り、また今年からは新たにペラペラにイルミネーションを取り付けました。イルミネーションの光がより一層クリスマス気分を高めてくれています。

クリスマスの気分が高まる中、今年のクリスマスランチは12月24日。(クリスマス会はディナーではなく、お昼にクリスマスランチとして開催しています。)当日は入居者さんとスタッフと協力してリビングを飾りつけたり、ランチを作ったりと大忙しでしたが例年のように素敵なクリスマス会を開く事ができました。ランチの形式は様々でビュッフェ形式だったりコース料理の様なメニューだったり毎年違い、入居者さんと一緒に楽しみながら決めていきます。写真は以前のクリスマス会の時の様子で、ケーキやお菓子もたくさんあり、好きな物を自分で選んでいる時の嬉しそうなお表情は見ているこちらまで幸せな気持ちになります。

今年のクリスマス会の写真はホームの掲示板に提示していますのでみなさんぜひ見に来て下さいね！

年も明け新年始まったばかり！今年のホームも入居者さんとスタッフと一緒に楽しい行事を企画し、いっぱい楽しみたいと思います。みなさんもぜひホームに遊びに来て下さいね。

(重症者ホームひさやま)

介護福祉士 田代未来

土居ひとみ



みんなで一緒に作ったよ！



温泉湯豆腐がとろける～！！



皆でツリーに飾りつけ♪



サンタさんプレゼントありがとう！



早く食べたいな！

多くのご来園に感謝致します。 久山療育園クリスマス・2018

12月に入ると、園内の随所がクリスマスの明るく楽しい飾り付けや、ツリーやポインセチアの鮮やかな光や色合いであふれます。

12月12日の入園児者のクリスマス、12月14日の通所クリスマスとの合い中には、普段ご支援頂いているボランティアや諸教会の方々、関係団体や役員の皆様をお招きして、「久山療育園クリスマス」が開催されました。第1部の礼拝ではキヤンドルサービスと有志による聖歌隊のコーラスで、第2部の祝会では栄養課が準備した軽食や職員による歌と演奏で参加した皆様をお迎えし、イエス様のご降誕をお祝いする暖かなひと時を分かち合いました。

寒い中をご参加頂いた皆様にここに心より感謝致します。また来年も元氣でお会いできますように。

(法人事務局 馬原哲治)



藤田 英彦

光は闇の中に輝いている。そして、闇はこれに勝たなかった。

ヨハネ福音書1:5 (口語訳)

新約聖書の時代の世界は、平らで三階層に分かれ、高い山に支えられて天があり、そこに神が住むと考えられていました。地の果てには大海原があり、大きな河(チグリス・ユーフラテス川)が注ぎ、途中に大きな湖が渦を巻いていた。地の果ての大海や大きな河から落ち込む世界、陰府(よみ)は悪魔(サタン)の住むと信じられていました。天はまた「いのち」「光」「明るさ」「希望」の世界であり、陰府は反対に悪魔(サタン)が住み「死」「闇」「暗く」「絶望」の世界でした。天に住む神と陰府に住むサタンはそれぞれ天使を遣わし、地上に住む人間をひっぱり込もうとしており、天は神の住む世界であり、それが彼らの世界観でした。

1543年に、異端とされても、コペルニクスが「地動説」を唱え、ガリレオ・ガリレイが「それでも地球は丸い」と言う迄「地球は平らだ」とされていたのです。ここでヨハネたちが伝えようとしていることは「イエスのもたらす光は、混沌の闇を打ち負かす光である」ということです。

聖書の創造物語は、この世の前から既にあった「形なくむなしの地の混沌に」語り掛けて「光

あれ」と宣言します。神によって創造された光は、むなしの混沌の中に割って入り、闇を打ち破ったと伝えます。新約聖書の時代、パックスロマーナと言われ、権勢を誇ったローマ帝国の圧政の為に混沌とした闇の漂う世界の中で、ヨハネは神の子インマヌエル・イエスの到来を「暗闇の中に輝いている光」と宣言し、「そして、闇はこれに勝たなかった。」と言うのです。

もう一つのカギ「闇」という言葉、原語では「スコトス」ですが、ヨハネに7回出てきます。例えば、最後の晩餐の時、主から「しようとしていいることを今すぐするがよい」とイエスに言われたユダは「一切れの食物をとるとすぐに出て行った」とある13:30では「時は夜であった」と短くありますが、主イエスを裏切ったユダに闇を「夜」という一言で表現しています。「そして闇はこれに勝たなかった」この部分、新共同訳聖書は「暗闇は光を理解しなかった」となっています。原語は「カタランバネイン」「つかまえる、追い越す襲う」で岩波訳は「闇はこの光を阻止できなかった」となっています。これは「追いつくまで追跡し、捉え、打ち負かすことができなかった」で、口語訳の「勝たなかった」が端的で一番よいと思います。

この世の闇が、イエス・キリストを葬り去らせようとして、いろいろな手を使い、最後には十字架にかけ陰府にまで至らせたけれども、イエス・キリストは三日目に復活して世に勝ついのちを示めされ、滅ぼすことができなかったことを現在形で宣言しているのです。

各部の取り組みの紹介



相談支援室には
6人の相談支援
専門員がいます！



金子

私もいます！

相談支援室は当センターの0階にあります。「0階ってどこ？」と思っ
ていらっしゃる皆様…、第二療育室
の下にあるんですよ〜！一度遊びに
来て下さい〜！
久山療育園を利用されている方そ
うでない方、様々な方のご相談をお
受けしています。

相談支援室より
こんにちは！

相談支援センターゆい



松本

嶋田

佐藤

山下

ゆいは糟屋6町で在宅されている方を対象に相談支援をしています。その中には重症児者の方もいらっしゃれば、身体障がい、知的障がいの方もいらっしゃいます。

子育て支援や学齢児さんへの支援、学校卒業後の就労の支援、大人の方への支援など地域で自分らしく生活して頂けるよう、いろんな方々と連携しながらお手伝いをしています。

園内相談



大重

山田

私たちは久山療育園に入所されている利用者やご家族の方のお手伝いを行っています。

例えば、

- ※施設利用におけるサービス等利用計画作成。
- ※受給者証更新等各種手続きのご案内
- ※ご家族の方からの様々なご相談への対応などなど・・・です！

糟屋中南部 自立支援協議会事務局

自立支援協議会とは障がいのある方が住み慣れた地域で安心して暮らしていけるように現在の福祉サービスなどでは解決が難しい問題を共有して、解決に向けて協議していく場です。糟屋郡6町から委託を受けてその事務の一部を行っています。

障害児者療育等支援事業

障がいのある方のライフステージに応じた地域での生活を支援するため、療育や必要な支援などが受けられるよう環境を整えていく事業です。対象地域は糟屋郡全域と古賀市です。

バプテストコロニー友の会からのお知らせ

2018 年末街頭募金の街角から

前号でお知らせした2018年末街頭募金が、福岡市中央区天神の大丸デパート前で実施されています。

今年も予定では合計7日間予定されていますが、毎年この時期特有の不安定な天候の中、残念ながら実施が危ぶまれる日も出てきます。

今回の12月23日(日)も、予定時刻の13時前から天気予報通りの雨に見舞われましたが、集合していた入園児者の保護者の皆さん、久山療育園職員と家族、バプテストコロニー友の会会員の判断により、予定通り行われることになりました。時折雨足が強まる中ででしたが、子どもさんたちの可愛い呼掛けに応じて募金をして下さる道行く市民の方たちの姿に励まされ、あつと言う今に2時間が過ぎました。

この23日の後も、4日間にわたり諸教会を始めとする街頭募金が行われる予定ですが、残る日程はできるだけ天候に恵まれて、天神の街角に久山療育園支援をお願いする声が届き、多くの方々には私達の存在を知って頂き、重症児者の皆さんとご家族への理解と善意が寄せられるように、と願いました。

(バプテストコロニー友の会会員)

久山療育園職員 馬原哲治



第21回 久山療育園のために 「チャリティコンサート 2019」

日 時：2019年3月2日(土) 14:00～15:30 (13:30開場)

場 所：平尾バプテスト教会大名クロスガーデン
(福岡市中央区大名 1-12-17)

出演者：福田のぞみ (オルガニスト)
松谷友香 (ソプラノ)

料金：中学生以上 1,000円 小学生以下無料

*チケットは、福岡・北九州のバプテスト教会、久山療育園および当日会場でお買い求めいただけます。

*上記内容は変更される場合がありますのでご了承下さい。



ご協力ありがとうございました

(2018年9月1日〜11月30日) 敬称略

法人

一般献金

青森バプテスト教会女性会、安部聖子、阿部初美、有田・本田、安藤榮雄、飯田節子、いのちの冠福岡教会、尾崎啓三、荻本明美、甲斐悦江、甲斐文士、(学)西南学院西南学院高等学校母の会、賀戸一郎、(株)ロジテム九州、上久原区長柴尾賢一、北古賀由美、木下鮮魚、店木下孝之、草場正子、黒岩英子、香蘭女子短期大学、古賀成、五斗美代子、篠栗キリスト教会、鮫島隆之、鮫島経男、品川バプテスト教会、社会福祉法人キリスト者奉仕会、スーパード信、西南学院高等学校生徒会、西南学院バプテスト教会姉妹会、西南学院同窓会福岡支部、添田次郎、高橋香代子、田中三千男、由美、中原民子、つくしんぼうの会、手作品売上げ、富野バプテスト教会、中尾清寿、中久原区長今林武美、中村晴光、日南休幸子、花原章二、東大阪キリスト教会、木太君子、東倉忠勝、久山療育園保護者会、久山療育園来久の会、平川博・成、深見達弥、福岡聖書キリスト教会、福田一枝、福田靖、福岡キリスト教会、豊前キリスト教会、古川新、堀江満恵、榎谷悦子、又野洋子、松枝秀明、松尾貴光、松尾勇一、牟田逸雄、村津俊博、山田君代、山本俊次、(有)いまとう電器、横溝玲子、嘉久明子、吉見末男、吉村敏彦 (以上5,055,035円)

〔重症者ホーム〕

一般献金

自動販売機売上献金、井手伸昌、因勲、梅木光男、開園祭来園者、重症者ホームひさやま家族会、久山療育園献金箱、福岡あけぼの会ステッパアップ、船津丸泰、松尾順子 (以上1,111,460円)

〔施設〕

一般献金

安部田鈴香、池田和、稲石三代子、大坪夏江、大原定行、大原信幸、岡本好枝、小山和子、古賀謙二、小副川時子、佐伯年子、澤田久夫

新藤賢恵・佐知子、田上洋子、塚原千鶴子、伴敦子、名雪賢一、錦織純子、野田由里子、梁瀬歌子、平野幸枝、松尾国利、宮崎信義、森永清治(垂希)、山口吉昭、矢山一美 (以上248,000円)

献品

時久紀彦(タオル)、江藤さき代(運動器具)、栗ヶ沢バプテスト教会(石けん他)、来園者開園祭バザー品、篠栗キリスト教会(コップ)、川崎バプテスト教会女性会(エプロン)、嘉久明子(なし)、平塚バプテスト教会女性会(エプロン)、松枝秀明(手作り皿他)、草場孝幸(お手玉)、金沢キリスト教会女性会(手作りエプロン)、相川好美(手作りエプロン)、宮内千鶴子(紙オムツ)、鮫バプテスト教会女性会(タオル)、古賀國男(前掛けエプロン)、天城山荘職員高橋(手作りエプロン)、岡本好枝(お菓子) (以上0円)

〔バプテストコロニー友の会〕

ワークキャンプ街頭募金 (以上46,000円)

献金申込先

- 1. 《郵送》 社会福祉法人 バプテスト心身障害児(者)を守る会 〒811-2501 福岡県糟屋郡久山町大字久原 1869 久山療育園重症児者医療療育センター内 ☎(092) 976-2281(代)
2. 《郵便振込》郵便振替【01720-8-24404】 名義：バプテスト心身障害者を守る会
3. 《銀行振込》西日本シティ銀行久山支店 普71888 名義：バプテスト心身障害児(者)を守る会 理事長 山田雄次
4. 《ホームページ》 当センターホームページから、クレジットカードによる寄付が可能となっています。「寄付金のお願い」より開いて下さい。また、郵便局振込用紙もパソコン画面よりダウンロードすることができますので御利用下さい。
個人、会社共に免税の対象になります。
メール：hisayama@hisayama-smid.jp

メモ帳

【10月】▽3日 平成30年度病院立入検査▽5日 めぐみ棟園外活動(香椎浜イオン)▽9日 ホーム外出活動：ハーモニランド、宇宙園外活動(アンパンマンミュージアム)▽11日舞鶴幼稚園母の会ボランティア30名▽12日 誕生会▽14日 まつり久山参加▽16日 余暇活動(スマイリングホスピタルジャパン)、福岡特別支援学校 修学旅行▽19日 第2回運営協議会、めぐみ棟園外活動(かしいかえん)、親交会臨時総会▽20日 認定看護師研修運営会議、こひつじランチカフェ▽23日 九電工ボランティア(さわやかコミュニティ旬間)15名参加、めだか共同作業所保護者見学(11名)▽24日 社会福祉法人指導監査等、福岡県立入指導、精華女子短期大学幼児保育学科 見学(34名)▽25日 災害対策訓練▽26日 通所秋祭り▽27日 入所秋祭り▽28日 中部教会バザー参加
【11月】▽2日 めぐみ棟園外活動(かしいかえん)▽8日 筑紫女学園大学人間科学部見学(20名)、全体避難訓練、大相撲前夜祭見学▽9日 ひかり棟園外活動(リタの農園)、保護者会役員懇談会▽10日 ボランティア講習会(7名)▽14日 九州産業大学子ども教育学科見学(44名)▽16日 誕生会、16日 22日 通所保護者懇談会▽17日 平尾教会 こひつじランチカフェ▽20日 第3回理事会、余暇活動(スマイリングホスピタルジャパン)▽21日 第10回北部地区在宅重症児者連携会議▽27日 余暇活動(アートムジカ)
【12月】▽5日 避難訓練▽7日 第2回評議員会、2018年第71回福岡市民クリスマス、親交会主催忘年会▽11日 入所クリスマス▽13日 園クリスマス▽14日 通所クリスマス▽15日 こひつじランチカフェ▽18日 余暇活動「絵本と音楽のしらべ」▽20日 消火訓練(託児所)▽21日 誕生会、福岡特別支援学校終業式、キャロリング(病棟)▽24日 クリスマスランチパーティー(ホーム)28日 東区第3障がい者基幹相談支援センター見学(6名)

職員の異動

(2018/10/1〜12/31)
【採用】
▽吉村尚子(療育員)11/7付
▽原田陽章(事務員)12/1付
【退職】
▽安河内美名子(療育員)10/31付
▽進藤江美子(看護師)11/30付
▽谷口彩香(介護福祉士)12/31付
▽古賀麻衣子(言語聴覚士)12/31付

ボランティアだより

職員OBボランティア

今回のボランティアは開園当初から久山療育園で働いておられ、その後退職された職員方を取りまとめ、利用者とのふれあいやボランティア作業のために訪問して頂いている、通所看護師の町田志磨子さんのお話を紹介します。

今年の4月より、退職された職員を中心にボランティア活動を開始しています。勝手にOB会と名乗っていますが、最高年齢83歳から71歳までの10名で第2・4水曜日の10時から12時までを活動時間としています。

きっかけは久山療育園を訪問することで少しでも利用者へ寄り添い気分転換になれば、と思つて始めました。子どもの頃を知る職員が共に過ごしてきた入所者の窮状に力になりたいと思つたのです。特に在籍が長い入所者の話し相手になり少しでも生活の刺激になりたい、私達も顔を合わせ、お互いの健康とコミュニケーションの場になることを目的に始めました。

作業はベッド柵や車椅子を拭いたり、消毒したり、入所者の傍にいて話しかけたり、アルバムを見ながら昔話をしたりと簡単な事ですが、入所者の方々が昔から聴きなれた声や作業中の私達の笑い声と一緒に笑顔を見せてくれることが「良かった」と思える一瞬です。

先日、メンバーのひとりが受け持ちで関わりの深かった入所者に「Y君、誕生日〇月〇日だったよね。」「私の誕生日覚えてる？」と聞いたところ「1月15日！」と答えたそうです。退職後長い年月が経過しているのにも関わらず、覚えてくれていたことに涙がこぼれたと話してくれました。私達もみな胸がいっぱいになりました。

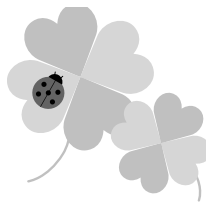
また、最近では入所者の家族の方や特別支援学校の先生も一緒に参加され、ベッドの清掃を行いました。

退職された方で、気に掛かっている入所者に面会したいと思うとき、この活動を思い出して気軽に参加して頂き、この輪が広がり継続される事を願っています。

心温まるエピソードとOB会へのボランティア募集有難うございました。小さい頃から利用者と毎日関わってきたこの方々でしかできない声掛けと、温かいつながりが今でもあるのは本当にありがたいです。

今後ともよろしくお願いします。お礼は皆さんの笑顔でお返ししますね。

(ボランティア委員会 大重佐和子)



歩行器



2019年が幕を明けました。今年は大きな変動の年になりそうな予感です。ドイツの著名な作曲家ベートーベンが交響曲第五番「短調」運命の作曲を開始した頃は彼の人生で最も苦しみ味わった期間でありました。恋人との別れ、耳も聞こえず会話も不十分でかつ社交界からも疎遠となっていました。この曲の冒頭で強烈な4音の響きこそまさしく「運命が扉を叩く」音であったといえます。この音で運命を克服して進む姿を示し、人々の閉塞感を払拭し、未来への勇気と希望を与えたのだと思います。

激動する変化の多い時代においては、事象を見極める3つの「目」が必要になっています。最初は「虫の目」です。これはミクロの視点でさまざまな角度から細部を注意深く見る目です。次は「鳥の目」で、鳥のように高いところから俯瞰し、広い視野で全体を見渡す目です。最後は「魚の目」です。時代の流れや変化、トレンド、法律改正など水の流れをつかむように敏感に感じ取る目です。

そしてこれらの情報や動きを的確に分析し、具体的な計画立案して、積極的に行動することが重要です。いまこそ故米国大統領ケネディが就任挨拶のときに語った「久山療育園があなたのために何をしてくれるかではなく、あなたが久山療育園のために何ができるか考えよう。我々皆さんに求めていると同じ水準の熱意と奉仕を、そして良心の喜びを唯一確かな報酬として、この愛する久山療育園を導いて行こう」(注) 国を久山に読み替えています」というこの言葉が我々職員にとつていまなお新鮮で語り掛けています。

この激しい時代に新しい松明を掲げ次の世代へバトンタッチして更なる成長のための仕組み作りをいかに構築するかが久山療育園 重症児者医療療育センターにおいても問われています。祈りと実践で確実に一歩一歩歩みを進めたいと願っています。

(M・U)